



2026年2月12日

各 位

会 社 名 ワシントンホテル株式会社  
代 表 者 名 代表取締役社長 長谷川 太  
(コード番号:4691 東証スタンダード市場、名証メイン市場)  
問 合 せ 先 執行役員経理財務部部長 津尾 則文  
(TEL. 052-745-9036)

### 通期業績予想の修正及び配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、2025年8月14日に公表した2026年3月期の通期業績予想及び配当予想の修正を決議しましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

#### 1. 個別業績予想の修正について

##### (1) 2026年3月期 通期個別業績予想数値の修正 (2025年4月1日～2026年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 23,500	百万円 3,050	百万円 2,460	百万円 2,420	円 銭 201.11
今回修正予想 (B)	24,200	3,760	3,220	2,930	244.02
増減額 (B - A)	700	710	760	510	—
増減率 (%)	3.0	23.3	30.9	21.1	—
(参考) 前期実績 (2025年3月期)	21,347	2,240	1,755	2,015	167.13

##### (2) 修正の理由

売上面につきましては、当第3四半期累計期間において、中国政府による渡航自粛要請の影響が当社の一部事業所で見受けられたものの、当社全体としては、当該影響を受けなかった事業所を中心に宿泊需要が堅調に推移いたしました。加えて、近畿地区における集客が万博終了後も引き続き好調に推移したほか、名古屋・博多地区においても訪日観光客（インバウンド）需要の拡大を背景として高い稼働水準が継続した結果、客室稼働率およびADR（平均客室単価）が想定を上回って推移いたしました。当第4四半期においては、中国からの訪日客数の減少や、一部事業所で実施中の全館リニューアル工事に伴う販売不能客室の発生等による影響が見込まれるもの、当第3四半期までの業績進捗を踏まえ、通期の売上高は前回発表予想を上回る見込みです。

利益面につきましては、当第3四半期累計期間における売上高の増加に加え、レベニューコントロールの強化による客室単価の上昇が限界利益の改善に寄与したことから、各段階利益ともに想定

を上回って推移いたしました。当第4四半期につきましては、閑散期に伴う売上の減少影響や、改修・修繕に係る追加費用の計上を想定していることから、利益の上積みは限定的となる見通しであります。通期ではこれらの影響を織り込んだうえでも、各段階利益は前回発表予想を上回る見込みとなっております。

これらの状況を踏まえ、通期業績予想を上方修正することといたしました。

## 2. 配当予想の修正について

### (1) 配当予想の修正内容

	年間配当金		
	中間配当 (円 錢)	期末配当 (円 錢)	年間 (円 錢)
前回予想（2025年8月14日発表）		26.00	26.00
今回修正予想		40.00	40.00
当期実績	0.00		
(参考)前期実績（2025年3月期）	0.00	20.00	20.00

### (2) 修正の理由

当社の剰余金の配当については、各事業年度の業績を勘案し、既存事業所の設備改修のほか、将来の事業展開と経営体质の強化のために必要な内部留保を確保しつつ配当性向は25%を目安とした安定的かつ継続的な配当を行うことを目標にすることを基本方針としております。

2026年3月期の1株当たり配当予想につきましては、当第3四半期までの業績進捗および今回の通期業績予想の修正により、通期ベースでの利益水準が想定を上回る見通しとなったことから、利益還元の充実を図ることが適切であると判断いたしました。

さらに、借入金の状況や将来の設備投資等への備えを含めた中長期的な成長投資とのバランスを考慮した結果、当社の財務状況を踏まえた水準として、前回予想から14円増配の1株当たり40円に修正いたします。

今後も業績向上に努めるとともに、持続的な成長を通じて株主の皆様への利益還元を充実させてまいります。

(注) 本資料に記載されている業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上